

波 動



2019年（平成31年）

2月5日（火）

第66号

保健教育 講演会を行いました（2月4日）

2月4日（月）6校時に保健教育講演会を行いました。近藤卓先生（日本ウェネススポーツ大学教授・日本いのちの教育学会会長）のお話をお聞きしました。ユーモラスでギター演奏と歌もあり、1時間の講演があっという間でした。「恋」と「愛」の違いや「ありのままの自分」とはなど、たくさんのお話をしていただきました。みなさんもいろいろ考える良い機会になりましたね。感想は後日、通信で紹介したいと思います。

職業調べ感想《PART2》

○インタビューした人 父（商品開発）

普段聞けないような話をたくさん聞けました。仕事の大変さだったり、やりがいだったり、自分が今何をすれば良いかなども分かりました。文武両道を目指していきたいと思います。

1組



○インタビューした人 伯母（ヨガのインストラクター）

インタビューして思ったことは、自分は自信が無いからと避けてきたことがたくさんあるけど、何事にも挑戦していくことが大切なんだと改めて思いました。

1組

○インタビューした人 知人（美容師）

最初は他の夢があったそうですが、高校生の頃に「美容師になりたい」と思ったそうです。「今夢が無くても、これからいろいろ興味のあることが増えてくるかも知れません。でも自分のやりたい仕事ができると、すごく楽しい」と言われていたので、これから興味のあることに取り組んで行きたいです。

1組

○インタビューした人 母（幼稚園教諭）

小さな子どもたちと接する事は大変だと思います。幼稚園は3歳からですが、母の幼稚園では2歳の子どものみいるので、とても苦労していると思いました。私のいとも小さいので、かわいいですが、接するのはとても大変です。母はいとこたちを笑わすのが早くて、すごいなと思います。慣れても苦労はたくさんあるんだなと思いました。

1組

○インタビューした人 母（漁網製造）

改めて親の仕事のことが分かって、いつも頑張ってくれているんだなと思いました。自分達の先輩として、アドバイスをしてくれたので、大切にしたいと思います。

1組

職業調べをしてみてどうでしたか。「普段聞けない話をたくさん聞けて、とても勉強になった」と感想を書いている人が多かったです。家庭科の時間にも、お金の学習を通して、職業のことに触れましたが、トライやる・ウィークに向けて、「仕事をする」ということについて、よく考えておきましょう。（トライやる・ウィークでは、仕事以外の文化的活動もあります）自分は、何に興味があり、どんなことをしてみたいのか、また、今どんなことをしておかなければいけないのか、よく考えて一日一日を大切に頑張っていきましょう。

古くから、桜を育てる人は「桜守り」と呼ばれてきました。「子守り」をするように、桜を見守り、励まし、世話をし、一緒に四季を重ねていく人のことです。各地の名高い桜にも、陰にそういう「桜守り」の人たちの努力があるのです。「守り」というのは、同じ「まもる」でも「保護」とは違うようです。「保護」は、今の状態を保たせるという意味合いが強いのですが、「守り」は、未来へ伸びていく命を信じて、その成長を支えていこうという心があるのです。ですから「守り」をする人は、木をいじりすぎません。基本は、放っておくのです。しかし、目は離しません。細かく見守りながら、木の力を信じて大きくまかせていくのです。例えば、心配だからといって、早くから添え木をしたりすると、木はそれに頼って、自力で大きくなろうとしなくなります。特に大事なものは「根」なのだそうです。桜の場合は、枝の広がりとはほぼ同じ広さまで、地下で根を広げているそうです。それを知らないで、根本ばかり水をやっているとどうなるでしょう。「桜は、苦労しないでも水を得られるので、根を遠くまで伸ばそうとしなくなる」そうです。根さえしっかりしていれば、木は、そこが風吹きつける岩山であろうと生きていくことができます。木は「生きもの」なのです。機械ではないのです。同じ桜でも、一本一本それぞれ違いがあります。育ってきた環境も違います。だから「こうしたら、うまく育つ」という教科書はありません。その木の性格や癖をよく知って、それに合わせて、温かく「守り」をするしかないのです。

みんなも一人一人違います。それぞれ個性があり、持っている力や能力も異なります。今、どんなに成績が悪くても、なにをやってもうまくいかないと思っている人も、将来、どんなおもしろいこと、素晴らしいことができる人間になるかわからないのです。その可能性をみんなは持っています。何かのきっかけで周りも自分自身もびっくりするほど変わることも珍しくないのです。その可能性を信じて、新しい事にチャレンジしたり、しんどいことや無駄と思えるような事も、腐らずやり続けることが大事なのです。

※立春が過ぎ、寒暖を繰り返しながら、春に向けて少しずつ季節は進んでいきます。春を感じる一番の花は「桜」という人も多く、日本で生活する人は、「桜」を特別なものと感じる人も多くいます。そんな桜の花に携わる仕事なんて、素敵ですね。



学習ノート終了

7冊目 1組

6冊目 1組

4冊目 2組

2組